

2022 年度診断評価等基準委員会 第 1 回委員会 議事録

開催日時：2022 年 5 月 30 日（月）20 時～21 時 30 分

開催場所：Web 開催

出席者（敬称略）：筑田博隆、高橋淳、高見正成、大和雄、安藤圭、福井充、金山雅弘、河村直洋、寒竹司、飯塚陽一、関口美穂、加藤壯、本郷道生、川上守、紺野慎一、橋爪洋、池上章太

欠席者（敬称略）：なし

議題

- ・当委員会の役割、今期の達成目標について（担当理事：筑田）

役割：アウトカム評価を策定、妥当性評価する。

達成目標：アウトカム評価に関しての 4 つのプロジェクトをまとめる。

- ・委員の自己紹介

- ・プロジェクトの内容および進捗紹介（プロジェクトリーダーより）

LSS 疾患特異的アウトカム評価のための症状スケールと QOL スケール検証（関口委員）

1. 研究目的：LSS 疾患特異的アウトカム評価のための症状スケールと QOL スケール検証

2. 適格基準：50 歳以上、手術、保存加療

3. 目標症例数：400 例

4. これまでにデータがある症例数：集積総数現在 172 例

5. 想定される課題：登録症例数が伸び悩んでいるため、再度登録の募集をかける。

成人脊柱変形のアウトカム評価 側弯症学会との共同プロジェクト（大和委員）

1. 研究目的：成人脊柱変形について患者立脚型質問票による新評価指標を策定すること

2. 適格基準：矯正固定術 4 椎間以上（骨盤固定問わず）、50 歳以上 80 歳未満。除外基準は下肢症状が主なもの、パーキンソン病など。

3. 目標症例数：135 例

4. これまでにデータがある症例数：0 例

5. 想定される課題：日本側弯症学会審査は承認済、日本脊椎脊髄病学会審査については要確認。浜松医大で倫理委員会申請中だが、一括審査として出し直す可能性。研究施

設（12 施設）申請依頼中。成人脊柱変形手術年間 5 例以上見込めるところでプロジェクトに入っていただく。日本側弯症学会、日本脊椎脊髄病学会両方のプロジェクトとしてやっていく。

胸髄症のアウトカム評価（加藤委員）

1. 研究目的：圧迫性胸髄症のアウトカム評価。既存スケールでの検証。
2. 適格基準：20 歳以上、T2-脊髄円錐の間。除外基準は頸髄症の合併、神経疾患、歩行障害の原因となる筋骨格系疾患、外傷・腫瘍・感染、前立腺肥大。
3. 目標症例数：34 例
4. これまでにデータがある症例数：0 例
5. 想定される課題：頸髄症のために作られた既存のアウトカム評価をそのまま、あるいは改変して用いる場合、信頼性、妥当性について担保されない可能性。反応性評価の期間の設定。患者立脚型の評価に昇華するか。

脊椎固定術後の ADL 障害についての新規アウトカム評価（高見委員）

1. 研究目的：日本の生活様式に即した脊柱不撓性障害評価法の開発。信頼性・妥当性を満たし、固定術後の満足度やリハビリの効果を反映するもの。固定後に限らず DISH/AS などの評価にも使用可能な評価法を目指す。

2. 適格基準：腰椎固定術後患者および DISH/AS 患者

3. 目標症例数：未

4. これまでにデータがある症例数：0 例

5. 想定される課題：既存の脊柱不撓性評価は腰椎可動域との間での外的妥当性の面で問題がある。アンケートと股関節なども含めた身体測定を絡めていく。まず実際の質問項目設定の手順を検討する必要がある。

・今後のすすめ方について（高橋）

リーダーを中心に WG メンバーを決定→WG で活動→次回委員会で進捗報告

・次回委員会日程について（高橋）

2022 年 6 月 27 日（月）20 時より Web 開催。